

緑が丘中学校初動対応シート

場面	対象	地震発生	安全確保	1次避難	安全確認	二次災害	2次避難	安全確認	情報収集 被害状況把握	保護者へ連絡・引き渡し	防災拠点機能 <学校に留まっていられる場合>
大地震発生・大津波警報発表	課業中 校長・副校長 地震発生 地震が収まったら 地震発生		◎緊急放送で安全確保の指示 ◎テレビ・ラジオ等で地震・津波警報等の確認と最新情報入手	統轄本部設置 ◎校長は、校長室(職員室)で指揮 ・緊急放送で全校避難を指示 ◎副校長は、すぐに校庭へ ・デジタル防災無線を携帯(設置校)	◎人数と安否確認 児童生徒→担任→学年主任→副校長→校長 ・周囲の被害状況の把握 ・二次避難の準備・計画 ・負傷者の確認と手当 ・児童生徒の不安緩和 ・病院等の医療機関との連携 <1次避難状況を学校教育事務所へ報告>(1次報告:様式2 FAX等)	校舎倒壊・火災発生等	1次避難を省略した場合は、2次避難場所で1次避難で行うべきことを実施する。	◎安全な場所への避難指示 ・被害状況確認と最新情報入手 ※事前に避難場所と経路を決めておく ◎人数と安否確認 児童生徒→担任→学年主任→副校長→校長 ・周囲の被害状況の把握 ・負傷者の確認と手当 ・児童生徒の不安緩和 ・病院等の医療機関との連携	◎学校教育事務所へ連絡 (第1次報告に変更がある場合) ◎区災害対策本部へ連絡 ※デジタル防災無線、FAXの活用 ホームページ・ツイッター・電子メール等を活用した情報発信	◎統轄本部で情報収集 ・学校周辺の被害状況 ・公共交通機関等の運行状況 ・通信手段の開通状況 ・保護者への連絡方法の確認 保護者へ連絡 市域のいずれかで震度5強以上を観測した場合は留め置き	◎区災害対策本部との連携 ◎学校教育事務所との連携 ◎防災拠点運営の協力
			◎的確な指示 ・「頭部をまもれ」 ・「机の下にもぐれ」 ・「机の脚をもて」 ・「安心するような声かけ」	災害対策本部設置 ◎校庭へ避難誘導 ・名簿・引き渡しカード・ホイッスル等の携帯 ・配慮を要する子どもへの対応 ・トイレ、特別教室等に児童生徒が残っていないか確認 ◎施設被害状況の把握 ◎危険箇所の立入禁止措置	◎救出・救急医療班活動開始 ◎消火・安全点検班活動開始		◎予め定めた場所へ避難誘導 ◎的確な情報を与え、落ち着くように指示	◎救出・救急医療班活動継続 ◎消火・安全点検班活動継続	◎役割分担に従って行動 ・学校、地域の被害状況把握(安全な場合は通学路等も・・・) ・ライフライン、公共交通機関の状況 ・負傷者への対応 ・危険箇所の確認と立入禁止の表示 ・不安を訴えている子どもへの対応(養護教諭中心に)	◎引き渡しの手順 ・電話による連絡 ・緊急連絡網等 連絡とれず、または、危険で保護者の引取りが困難な場合 保護者へ 留め置き	地域防災拠点マニュアルに沿って協力開始 ・待避場所の確保 ・食糧の確保 ・保護者への連絡
			◎揺れがおさまるのを待つ ・机の下にもぐり、落下物から身を守る	◎落ち着いて移動 ・防災頭巾等で頭部を保護しながら上履きのまま移動 ◎「おかしも」の約束 おさない かけない しゃべらない もどらない	◎負傷者がいる場合は助け合う ・勝手な行動をとらない ・私語をつつしむ		◎落ち着いて移動 ・防災頭巾等で頭部を保護しながら上履きのまま移動 ・教員の指示に従い、急いで集合場所へ移動	◎負傷者がいる場合は助け合う ・勝手な行動をとらない ・私語をつつしむ	◎避難場所で静かに待つ ◎指示に従って、帰宅準備を行う	◎下校 ・保護者への引き渡し ・留め置き	・待避場所の確保 ・食糧の確保 ・保護者への連絡
職員分担		総括本部 校長 副校長 教務主任・学年主任 生徒指導専任 生徒指導部長 防災安全担当 養護教諭・事務	◎災害対策の総括指揮 ◎各班との連携のもと、校内の被災状況等の把握を行うとともに、教育委員会事務局等との連絡にあたる。 ◎各班との連絡調整を行う。 ◎非常持ち出し書類等を搬出。 ◎報道関係等の対応。学校と市教委、区対策本部との連絡	◎避難誘導 安否確認班 授業担当職員 授業外の3年担当職員	◎1～3階を見回る⇒安否確認、負傷者確認⇒職員室へ報告 ◎生徒の安全確保、避難誘導、人員確認 ◎行方不明者の捜索。 ◎保護者への生徒の引渡し ◎保護者の迎えがない生徒の保護	消火・安全点検班 庄司、馬場、授業外の2年担当職員	◎初期消火活動 ◎1～3階を見回る⇒校内の点検・避難経路の確認⇒職員室へ報告 ◎第二次避難場所及び避難路の確保				